

高田援護室長の模型部屋(第10回)

皆さんこんにちは！プラモデルを作る皆様の中で、作った後のことを考えないで「しまった!？」と思ったことのある方がいるのではないのでしょうか。「まさかこんなに大きくなるとは!」「飾る場所が無いやん!」「どこに隠そう…」

私も単身赴任中の募集班長時代に、実家に帰った時の事を考えずに作ったものがあります。義兄からもらったキットの中で、箱が一番大きかった…

B-17G 重爆撃機



機体色が銀なんだから背景の色を考えればよかったですね…見づらい!すみません皆さん。

キットは1/72のアカデミー社のものです。「これネットオークションで買ったからあげるよ」と、私のプラモ好きを知っている義兄からいただいたものです。単身赴任先の新潟のアパートに箱のまま飾っておいたのですが、意を決して製作に入りました。

やはり大型のプラモデルはワクワクするものです。しかし、作っていくうちに部品の合いが悪かったり、モールドが凸だったりとなかなか骨の折れるキットでした。アカデミー社の最近のキットは素晴らしいものがあるので、たぶん大丈夫だろうと作り始めましたが、キットそのものは古いものだったので、苦労しました。

戦車を主に作る私にしては、たまに違うものを作るのもマンネリ化したプラモ作りの気晴らし(笑)になるので、不定期ですが、航空機や艦船、アニメ等、幅広く作っています。

で、なんだかんだで完成したのはいいのですが、予想以上にデカイ!今でも押入れの中でその翼を休めています(笑)



機体はGSIクレオスのシルバーで、赤のラインはつや消し赤をマスキングして吹き付けました。デカールもあったのですが、やはりこれくらいの直線ならば塗装で仕上げたいものです。



アメリカの爆撃機といえばノーズアートですよね。日本ではなかなか描けないであろう女性をモチーフにしたアートはアメリカらしさを感じさせます。

窓の位置とデカールのバランスが悪く、貼り付けに若干苦労しました。密着させるのにマークソフターは欠かせません。丁寧に気泡を取り除き、デカールが浮き上がることを防ぎました。



窓は根気よくマスキングソルで塗り、窓枠を手塗りすることの無いようにしました。やはり、同色で筆塗り
とエアブラシ塗りだと明確にその差が出てしまいます。

機体の基本塗装が終わった後、サクラマツアクリル絵の具でスミ入れし、ひたすら濡らした綿棒で拭き
取ります。擦ると金属色はその顔料粒子が取れてきてしまい、ほかの色の部分に付着してしまいます。

よく見ると、反射防止の黒や翼の赤の上に薄っすらと銀の粉がのっかったようになっちゃいました・・・
シルバーの上から透明のトップコートなんかを吹き付ければ良かったのですけどね。機体左右の合わせ目
も削ったのにやっぱり歪んで残ってしまいました(泣)



機体を下から見てみます。もっと排気や空中の摩擦によるスス等で汚れたようにしても良かったですね。



飛び立っていくB-17を見上げる。今宵はどの都市を焼け野原にするのか……なんてね。



同スケールの零戦21型と並べてみました。その大きさが分かります。そもそも零戦ではB-17の飛んでいる高度まで届いても十分な空中戦が出来ませんがね…



写真を撮るにも大きすぎて、写真撮影用ブース内に納めることに集中してしまい、細かいところまでの写真を撮るのを忘れてしまいました。これに懲りず、予算と時間と場所があれば、大きいプラモを作りたいと思います。

航空機はまだ勉強不足です。参考にならなかったかもしれませんが、お許しください。写真の撮り方も勉強します！では、今回はここまで。またお付き合いくださいね！